

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	造園施工実習					授業形態	実習		
科目コード	234500	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	櫻井 清喜、平岡 直樹、岡島 直方							ICT活 用	
授業概要	<p>石積工事、園路工事を中心として実施する。それに伴い石積工・石張工・ラティス工・花壇工・土工・セメント工・植栽工、工事測量（位置出し・クイ打ち・レベル・丁張り）、施工管理、施工検測などの技術を習得する。担当教員が普段の業務で実践している経験から教育する。本実習は少人数の班編成で実施し、精度の高い一連の造園施工技術を学ぶ。これらの内容を通じて、安全に正しく造園作業を行うことができる造園人の姿勢を培う。夏期に集中講義で実施し、学外で実施することもある。下記授業計画は一例である。授業の実施時において、最も効果的な内容を選択する。講師の櫻井先生は、大学在学中から、大学のそばの民間の庭の樹木の剪定などを行い、大学卒業後すぐ自身の造園会社を立ち上げ、住宅の庭など民間の依頼を受けて仕事をしてきた。個人邸の庭の計画、立案、施工、管理などに数十年かかわってきた経験をもとに、主として造園の施工・管理の技術を指導する。</p> <p>【知識・理解の活用、課題解決】 【汎用的技能、諸要因探求】 【人間力、他者と協調】</p>								
関連する科目	関連科目は、「造園ガーデニング実習Ⅰ、Ⅱ」である。これらを受講したうえで受講することが望ましい。								
授業の進め方 と方法	受講者をグループに分け、テーマごとに実施します。目標としている課題を達成するための身体の動かし方を体験します。具体的スケジュールは、各年によって変更されることがあります。								
授業計画 【第1回】	第1回 スケジュール説明・共有事項： 施工目的、施工場所、施工人数の確認をします。								
授業計画 【第2回】	第2回 石工（石積み・石張工、レンガ工含む） 準備工：施工場所のデザイン検討・説明をします。								
授業計画 【第3回】	第3回 石工 準備工： 石張材料の視察・選定をします。								
授業計画 【第4回】	第4回 石工 準備工： 施工場所のデザイン検討をします。								
授業計画 【第5回】	第5回 石工 準備工： 施工場所のデザイン決定をします。								
授業計画 【第6回】	第6回 石工 準備工： 施工場所のデザイン検討・発表をします。								
授業計画 【第7回】	第7回□ 石工 工事測量： 位置出し・クイ打ちレベル丁張をします。								
授業計画 【第8回】	第8回□ 石工 施工前準備工： 施工場所の把握・不用木の掘取移植をします。								
授業計画 【第9回】	第9回□ 石工 施工前準備工： 路盤工事・下地作りをします。								
授業計画 【第10回】	第10回□ 石工 施工： 施工法説明・材料検品・材料洗浄をします。								
授業計画 【第11回】	第11回□ 石工 施工： 敷設などの施工をします。								

授業計画【第12回】	第12回□ 石工 施工： 目地入れ・仕上げをします。
授業計画【第13回】	第13回□ 植栽工 客土・中高木植え付けをします。
授業計画【第14回】	第14回□ 植栽工 中高木植え付け・支柱をします。
授業計画【第15回】	第15回□ 総括： 振り返り・意見交換をします。
授業の到達目標	造園ガーデニング実習ⅠⅡの基本技術を応用して、具体的な場所にデザイン施工し、一連の造園施工プロセスを体得する。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	翌日実習の内容の予告があるので、施工方法などについて調べておくこと。(30分から1時間程度)
授業時間外学習【復習】	当日実習の内容を、日誌にまとめる。(30分程度)
課題に対するフィードバック	実習授業なので、その日の実習内容に取り組むことが主な課題となります。説明をよく聞いて、適切に実施できているかどうか観察され、問題点があればその場で指摘されます。
評価方法・基準	レポート課題(日報と最後のまとめのレポート)で評価する(100点)。
テキスト	授業中に配布する資料など
参考書	多数あるので、授業中に紹介する。
備考	卒業制作を行いたい学生は本科目を必ず履修しなければならない。 また造園ガーデニング実習ⅠⅡを受講した学生のみ、本科目の受講を認める。